

# チシマザサの密生地における民間ボランティアによる簡易なブナ林再生手法の検討

黒松内ブナ林再生プロジェクト 新川幸夫(会長) 斎藤 均(事務局)

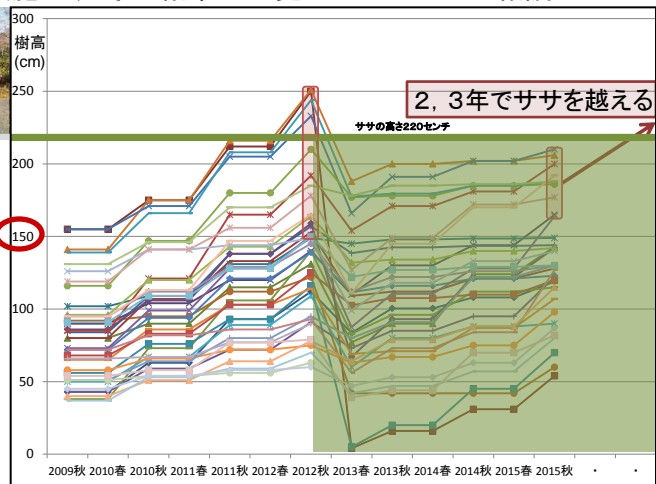
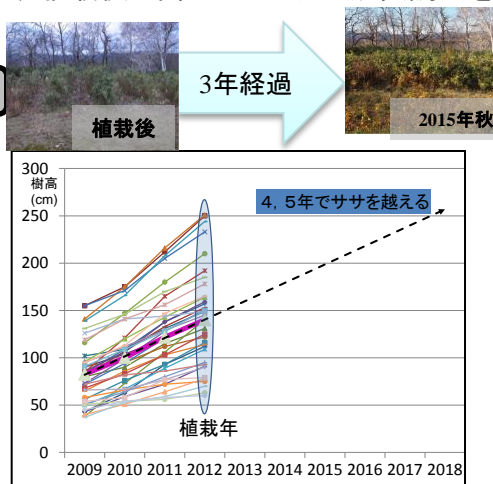
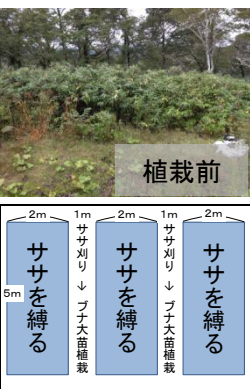
## 取組の背景・目的

黒松内ブナ林再生プロジェクトは、黒松内に元々あったブナ林を再生したいという町民有志が集まり2007年から活動を開始しました。黒松内岳の国有林でブナが伐られてササ原になってしまった場所を再生する手法を確立するため、黒松内岳の標高450m付近の北東斜面の約4haを再生地として後志森林管理署と協定を結び「種子集め」「種子まき」「苗の育成」「育成苗の植栽」「山取苗の植栽」「ササの中へ大きい山取苗の植栽」等の活動してきました。

2011年までの5年間の活動の結果、斜面上部にブナの母樹を育てることが、大面積のササ原をブナ林に再生する効率的な手法であるという結論を得たので、2012年にチシマザサのササ藪の中にブナの大苗を植えてみました。今回は、植栽後3年経ったブナの成長調査を実施し、その結果から見えてきた1つの結論について紹介します。

## 取組の内容・成果

2012年秋



ブナを植栽した2012年の段階では、それまでの3年間の成長調査のグラフから単純に4,5年でブナがササを超えるのではと期待しました。実際は、冬の間、ササと一緒に雪につぶされ、曲がったり折れたりして、2013年春に2012年秋の高さに戻ることができない個体がほとんどでした。その後、3年間放置した結果、外から見た様子は2012年の植栽前と同じようなササ藪に戻りましたが、近づいて見てみると、植栽したブナはササに被圧されながらも成長し、38本中36本が生存していました。

今秋の成長調査結果のグラフを見ると赤枠で囲った9個体はあと2,3年でササを超えそうな成長を示しています。これらの9個体の植栽時の樹高を見てみると約150cm以上の個体であったことがわかります。

このことから、高さ2mを超すようなチシマザサの藪にブナの母樹を早く育てるには、ササを縛る方法で約150cm以上のブナを植えるのが効率がよさそうだという結論が見えてきました。

## 今後の展開

右の写真のように、ササ密生の中にブナの枝先が見え始めています。植栽時、樹高150センチ以上だった個体(16本)のうち9本があと2,3年でササよりも背が高くなると考えられます。

今後も成長を見守り、ササの上に出た後にブナがどのような挙動を示すのかモニタリングしていきます。

ブナ



ササを縛る



ササを刈る



穴を掘る



ブナ大苗植栽